



2nd Well Aging Society Summit Asia-Japan 開催報告

2019年12月



- ◆ 実施概要2
- ◆ 目的2
- ◆ プログラム3
- ◆ セッション概要
 - 16日6
 - 17日8
- ◆ ビジネスピッチコンテスト出場者と結果12

名称：2nd Well Aging Society Summit

開催日：2019年10月16日（水）・17日（木）

開催場所: 室町三井ホール&カンファレンス 3階

住所：〒103-0022 東京都中央区日本橋室町三丁目2番1号

主催：経済産業省・Healthcare Innovation Hub(InnoHub)

共催：内閣官房 健康・医療戦略室、厚生労働省

参加人数：641名（2日間累計）

参加国/地域：22カ国/地域

カナダ、中国、デンマーク、フィジー、フィンランド、フランス、フランス領ポリネシア、ドイツ、香港、インド、イスラエル、イタリア、日本、ネパール、シンガポール、スペイン、スウェーデン、台湾、オランダ、イギリス、アメリカ、ベトナム（アルファベット順）

目的

「2nd Well Aging Society Summit Asia-Japan」では、国内外の有識者による基調講演やパネルディスカッション、ヘルスケア分野において社会課題の解決に挑戦している企業によるピッチコンテストを通じ、超高齢社会の先進国である日本が国内外に対してその研究開発フィールドとしての有用性や優れた製品・サービスに関する情報発信を行うとともに、ビジネスマッチングなどを通じてヘルスケアビジネスへの投資を活性化することを目的としています。

加えて、日本をフィールドに創出されるユニークかつ効果的なヘルスケア産業を通じ、日本のみならず世界の健康寿命延伸にも貢献することを目指しています。

時間	プログラム内容	
9:30-9:40 9:40-9:50	開会挨拶	➤ 内閣府大臣政務官 今井絵理子氏 ➤ 公益社団法人 日本医師会 横倉義武氏
10:00-10:15 10:15-10:30	基調講演	➤ National Academy of Medicine Victor J. Dzau氏 ➤ 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 末松誠氏
10:45-11:45	パネル ディスカッション	「医療の未来イノベーション」 ➤ I.M. Sechenov First Moscow State Medical University Nick Guldemon氏 ➤ National University Health System, Singapore Reshma Merchant氏 ➤ King's College London 渋谷健司氏 ➤ US National Academy of Medicine Victor J. Dzau氏 ➤ 内閣官房健康・医療戦略室 渡辺その子氏 ➤ 厚生労働省 迫井正深氏
12:00-13:00	ランチセッション	「関西からのイノベーションの取組」 ➤ 大阪大学 医学系研究科・医学部 八木雅和氏 ➤ 大阪大学 医学系研究科・医学部 澤芳樹氏 ➤ スタンフォード大学 Ryan Van Wert氏 ➤ Remohab. Inc.、大阪大学 大学院医学系研究科 谷口達典氏 ➤ Sysmex Corp. 二松史哉氏 ➤ Johnson and Johnson INNOVATION 楠淳氏
13:15-14:15	パネル ディスカッション	「Rational medicine」 ➤ 東京大学 大学院医学系研究科 岩坪威氏 ➤ 一般社団法人Medical Excellence JAPAN 近藤達也氏 ➤ 同上 山崎直也 ➤ Certara, L.P. Leigh Farrell氏
14:30-18:30	ベンチャーピッチコンテスト	テーマ1: Quality Digital Health テーマ2: Aging
18:45-20:15	レセプション	ネットワーキングレセプション ベンチャーピッチコンテスト表彰式

時間	プログラム内容	
9:40-9:45 9:45-9:50	歓迎挨拶	➤ 牧原 秀樹経済産業副大臣 ➤ 自見 はなこ厚生労働大臣政務官
9:50-10:05 10:05-10:20	基調講演	「高齢社会に立ち向かう諸外国の政府より」 ➤ Hugo de Jongeオランダ副首相兼保健・福祉・スポーツ大臣 ➤ Aino-Kaisa Pekonenフィンランド社会保健大臣
10:30-10:45 10:45-11:00	基調講演	「グローバルパートナーの取組」 ➤ 世界経済フォーラム Andre Belelieu氏 ➤ 一般財団法人 アライアンス・フォーラム財団 George Hara氏
11:00-12:00	パネル ディスカッション	「ビジネスによる食を通じた健康管理・予防の活性化」 ➤ 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 阿部圭一氏 ➤ 公益社団法人 日本栄養士会 中村丁次氏 ➤ デザイナーフーズ株式会社 丹羽真清氏 ➤ The Consumer Goods Forum / DANONE Isabelle Grosmaître氏 ➤ The Consumer Goods Forum Pauline Harper氏 ➤ 味の素株式会社 西井 孝明氏 ➤ 厚生労働省 神ノ田昌博氏
12:15-13:15	ランチセッション	“Healthy aging community 創造に向けて(How can we create Healthy aging community ?) ～Case study for solving the Aging Challenge ～” ➤ 株式会社野村総合研究所 若友千穂氏 ➤ Aging2.0 Stephen Johnston氏 ➤ Ageing Asia Pte Ltd, Singapore Janice Chia氏 ➤ 株式会社MTヘルスケアデザイン研究所 阿久津靖子氏
13:30-14:30	パネル ディスカッション	「Aging Diseaseへの取組」 ➤ The Global CEO Initiative on Alzheimer’s Disease George Vrandenburg氏 ➤ World Dementia Council Lenny Shallcross氏 ➤ 京都府立医科大学 大学院医学研究科 成本迅氏 ➤ 特定非営利活動法人 日本医療政策機構 乗竹亮治氏 ➤ 国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 杉本大貴氏
14:45-15:45	パネル ディスカッション	「Aging Society構築に向けて」 ➤ University Medical Center Groningen Bart Scheerder氏 ➤ Global Coalition on Aging and Managing Partner, High Lantern Group Michael Hodin氏 ➤ AARP Stephanie Krone Firestone氏 ➤ 日本医師会 今村聡氏 ➤ 経済産業省経済産業省ヘルスケア産業課 西川和見

時間		プログラム内容
16:00-17:30	パネル ディスカッション	「Digital Healthの現状」 ➤ Massachusetts Institute of Technology Brian W. Anthony氏 ➤ HIMSS Charles Alessi氏 ➤ Hasso Plattner Institute Erwin Böttinger氏 ➤ 京都大学 大学院医学研究科 黒田知宏氏 ➤ 世界経済フォーラム第四次産業革命日本センター 山本精一郎氏
17:30-17:40	閉会挨拶	経済産業省商務・サービスグループ政策統括調整官 江崎 禎英



基調講演

日本研究医療開発機構 理事長 末松誠氏

- ・ 超高齢化社会を迎える日本は、世界に率先して対策をすすめていく。
- ・ 超高齢化に備え、様々なアイデアを集結させる必要がある。今後は、グローバルでのデータの共有化や連携、シルバーマーケットの開発、人的資源の構築などに取り組む必要がある。特にデータについては多くのデータをリンクさせ、統合していくことが目標である。

US National Academy of Medicine, Mr. Victor J. Dzau

- ・ 世界規模で長寿化、高齢化が急速に進んでいる。この状況は問題でもあるが、同時にチャンスでもある。今こそ、世界的に準備をスタートさせる必要がある。健康加齢ではなく、目指すのは健康長寿である。
- ・ 拡張性のあるイノベーションを行っていくことが大切であり、そのための健康長寿ロードマップを作成していく必要がある。
- ・ 我々が取り組んでいるグランドチャレンジは、健康長寿を実現するためのイノベーションを図りたいと考えてのものだ。今後は、オーストラリア、香港、アフリカ大陸の国々にも参加いただきたいと考えている。

パネルディスカッション「医療の未来イノベーション」

登壇者

- ・ I.M. Sechenov First Moscow State Medical University Nick Guldemon氏
- ・ National University Health System, Singapore Reshma Merchant氏
- ・ King's College London 渋谷健司氏
- ・ US National Academy of Medicine Victor J. Dzau氏
- ・ 内閣官房健康・医療戦略室 渡辺その子氏
- ・ 厚生労働省 迫井正深氏

- ・ 冒頭、各スピーカーより、各国の状況や取り組み、課題認識などについて説明した。世界的に少子高齢化が進み、医療費や介護費が増加していく中で、今後は健康長寿の実現に向けた取り組みが重要となることが共通の課題として指摘された。また、医療従事者の不足などに対応するための技術の導入・統合や医療機関間・地域間での連携の重要性も共通の話題として挙がっていた。
- ・ 続いて、技術の普及や導入において、医療界が他産業より遅れている理由について議論がなされた。技術を開発するだけではなく現実に普及させるためには、患者中心であることや、費用対効果の検証も含め実施に向けた科学的な検証を行うこと、産業界の協力が重要であることなどが議論された。
- ・ 最後に、当サミットの成果として期待することについて、イノベーションを起こそうという意気込み、リーダーシップ、地域の状況に合った対応などの重要性が指摘された。日本政府からは、日本が健康寿命分野でのInnovation Hubになっていくため、経済産業省と厚生労働省が将来に向け協力して取り組んでいることが紹介された。

ランチセッション「関西からのイノベーションの取組」

登壇者

- ・ 大阪大学 医学系研究科・医学部 八木雅和氏
- ・ 大阪大学 医学系研究科・医学部 澤芳樹氏
- ・ スタンフォード大学 Ryan Van Wert氏
- ・ Remohab. Inc.、大阪大学 大学院医学系研究科 谷口達典氏
- ・ Sysmex Corp. 二松史哉氏
- ・ Johnson and Johnson INNOVATION 楠淳氏

- ・ ランチセッションは、ロート株式会社様、シスメックス株式会社様、テルモ株式会社様の協賛により実施された。
- ・ 関西では2025年に予定されている大阪万博をキーワードに、同万博を未来社会における実験場と捉えつつ、ポスト万博も見据えながら、どのようにヘルスケアイノベーションエコシステムを構築していくかについて議論がなされた。
- ・ 続いて、成功事例としてStanford Biodesignの紹介やJapan Biodesignの起業事例、産業サイドの人材育成事例としてSysmex Corp.における取り組みが紹介された。
- ・ 技術開発の成果としてのソリューションの恩恵を患者や医師まで届くようにすること、医学的なエビデンスを積む検証環境の充実、インキュベーション能力の強化、グローバルなネットワークを通じた連携などが今後さらに重要になるとの議論がなされた。

パネルディスカッション「Rational medicine」

登壇者

- ・ 東京大学 大学院医学系研究科 岩坪威氏
- ・ 一般社団法人Medical Excellence JAPAN 近藤達也氏
- ・ Certara, L.P. Leigh Farrell氏

- ・ 合理的な医療についての議論を行った。
- ・ 認知症の研究は進んできたが治療についてはまだ道半ばであること、認知症の治療においては患者中心に考えることが重要であることなどが指摘された。また、人を中心としたデザインやデータ収集が必要であり、それによって細密化したケアが可能になるとのコメントがあった。
- ・ 討議後、会場からは、アルツハイマーに関するデータの提供者に対するベネフィットの生み方に関する質問が挙がった。登壇者からは、ヘルスケアコスト削減にはAIが活用できるとし、使用側にとってのリスクマネジメントをしっかりと行ったうえでデータを収集し活用してはどうかというコメントがあった。

基調講演「高齢社会に立ち向かう諸外国の政府より」

登壇者

• Hugo de Jonge オランダ副首相兼保健・福祉・スポーツ大臣

- オランダは人口700万人の小国だが、高齢化においては日本と似た状況であり、2040年には生産年齢人口は変わらないまま75歳以上の高齢者が増えるという問題を抱えている。
- 高齢社会を迎えるにあたっては3つの領域で新しいソリューションが必要である。一つ目は、高齢者人口が増えることによる健康医療制度の構築、二つ目は高齢者の疾患予防、そして三つ目は高齢化社会をどう組織していくかということである。三点目については尊厳を保ちながら年齢を重ねられる社会であるためにボランティアや企業による生活支援が必要である。
- 今後、健康推進のため同じ問題に取り組んでいる日本と協力し合っていきたい。

登壇者

• Aino-Kaisa Pekonen フィンランド社会保健大臣

- フィンランドも高齢化スピードが速く、少子化が進んでいる。社会保険省は労働人口の維持、高齢者の生活機能維持のため、未病の段階から早期の診断、治療で病気を防ぐ政策を進めている。認知症は将来の大きな問題だが、生活習慣の指導などで予防できる。色々な方法を検討し、最新のデータを常に把握し役立てることが必要である。
- また、個別化医療の時代が到来し、フィンランドではエコシステムを構築している。高齢者が生きがいを持って生きることができるよう、高齢者を社会負担ではなく重要な資源と考え、ピンチをチャンスにしていきたい。
- 経済とウェルネスは密接にリンクしており、強化することが必要である。経済ウェルビーイングで社会的安定性を図るためには国際協力が必要である。フィンランドと日本は強い繋がりがあり、今後も良いかたちで日本と経験を分かち合っていきたい。

基調講演「グローバルパートナーの取組」

登壇者

• 世界経済フォーラム Andre Belelieu氏

- 2018年に初めて世界で65歳以上人口が65歳未満を上回り、高齢化は世界中で問題になっている。日本は世界で唯一60歳以上が30%を超えたが、2050年には多くの国が同じような軌跡をたどることになる。高齢化、長寿問題では健康を維持することが重要な問題であり、医療制度の変革のため、エコシステムを変え、個別化医療を実現する必要がある。また、長生きするための財源的保証、社会的なセーフティネットも準備する必要がある。
- また、将来的には多世代にわたる労働者のスキルの問題がある。高齢者が若者にAIでは得られない知識を伝えることが重要である。多世代雇用のため多くの民間企業が雇用者として積極的に関わる必要がある。
- 世界の状況改善のためには複数の利害関係者が取り組みに参加することが重要である。世界経済フォーラムは、世界の政府と協力しあい、グローバルにこの難しい課題に取り組み、成功を収めていきたい。

基調講演「グローバルパートナーの取組」（続き）

登壇者

- ・ 一般財団法人 アライアンス・フォーラム財団 George Hara氏
- ・ 私は、たとえ事故にあっても病気になってもそれらの症状を改善し、寿命を全うできる最初の独立国家に日本をする、という計画をもっている。この計画は人口が少ない日本だからできること。それだけの先端技術もある。高齢化は日本だけでなくこれから世界が直面する問題なので、この計画を日本が実現できれば世界貢献できる。
- ・ この計画の実現のためには、①技術イノベーション、②制度のイノベーション、③エコシステムが必要。①とはがん等の病気を治療するための科学技術の発掘と事業化、②は技術をつかうための法制化、③は①と②のビジョンを共有し話し合っ政策を決めていく場である。
- ・ この計画は着々とすすんでおり、2050年までにこうした計画が実現できると強く信じている。

パネルディスカッション「ビジネスによる食を通じた健康管理・予防の活性化」

登壇者

- ・ 厚生労働大臣政務官 自見はなこ氏
- ・ 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 阿部圭一氏
- ・ 公益社団法人 日本栄養士会 中村丁次氏
- ・ デザイナーフーズ株式会社 丹羽真清氏
- ・ The Consumer Goods Forum / DANONE Isabelle Grosmaître氏（ビデオ出演）
- ・ The Consumer Goods Forum Pauline Harper氏
- ・ 厚生労働省 神ノ田昌博氏
- ・ 味の素株式会社 西井 孝明氏
- ・ 厚生労働大臣政務官の自見氏より、日本が2020年に東京で開催する栄養サミットの紹介があった。当サミットは栄養に関する現状と課題を確認したうえで今後の国際的な取組みを促進することを目的とする。同省の神ノ田氏からは、健康寿命・平均寿命の延長により日本の社会保障制度をしっかりと持続させる社会を構築できるとしたうえで、同省がとりまとめた「健康寿命延伸プラン」の内容を紹介した。
- ・ 続いて、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所の阿部氏より、低栄養・過栄養の混在という複雑な問題の解決を目指し、同研究所が研究に取り組むマイクロバイオーーム、メタボリックシンドローム、フレイル、和食について紹介した。
- ・ 食品企業と一緒に健康な日本を作ることとするデザイナーフーズ丹波氏からは、健康寿命のために企業ができることをテーマに、日本のスーパーマーケットが「食の薬局」になる、外食・中食は「食の病院」になることを目指した同社の取り組みの紹介があった。
- ・ The Consumer Goods Forum(CGF)議長のGrosmaître氏はビデオで出演し、CGFが健康な生活に向けて人々をサポートすることを目的として、各国の関係者と共に実験を重ねながらベストなインパクトをもたらせる方法を学んでいることを紹介し、様々なステークホルダーが協力し100億人に食品を提供するための循環を構築していくことが重要であるとのメッセージを届けた。またCGFのHarper氏からは「one for good」の紹介があった。
- ・ CGFのメンバーでもある味の素の西井氏は、同社が地域・行政と連携し、2018年では38都道府県、全国7万店舗で取り組んできた食育について紹介した。加えて、ベトナムの小学校での活動やガーナでの母子栄養科改善プロジェクトも紹介した。

ランチセッション「Healthy aging community 創造に向けて」

登壇者

- ・ 株式会社野村総合研究所 若友千穂氏
- ・ Aging2.0 Stephen Johnston氏
- ・ Ageing Asia Pte Ltd, Singapore Janice Chia氏
- ・ 株式会社MTヘルスケアデザイン研究所 阿久津靖子氏

- ・ 「Healthy aging community」の創造に向け、登壇者より活動の紹介を行った。
- ・ 若本氏からは、少子高齢化社会においては労働力確保のため健康な高齢者を増やすことが必要であり、そのためには未病の領域を向上させることが重要であると指摘のうえ、調査によれば、働いている高齢者が健康であると感じている割合が高く、年齢が高いほど顕著になる傾向にあることが紹介された。また、高齢化社会がイノベーションをもたらし、予防・メディカルケア・生活サポートなどの各領域で数千億規模のビジネスが生まれる可能性があることが紹介された。
- ・ Johnston氏からは、Aging2.0が全世界のコミュニティを繋げようとしているとコメントがあった。今後、Aging2.0ではグローバルなプラットフォームを構築し、集合知を活用し、変化に直面している世界を牽引するため、700程度の高齢者にやさしい都市を繋ぎ、年齢に関わらず有意義な生活を送ることができるように取り組みを進めていくことが紹介された。
- ・ Chia氏からは、我々が高齢者のケアを行うと同時に、自身も人生の後半を幸せに送れるようにしておかなければならないとした上で、そのためにAging Asia社が行っている、健康な年月を延ばし、健康が低下した終末期を短くするための取り組みについて紹介された。

パネルディスカッション「Aging Diseaseへの取組」

登壇者

- ・ The Global CEO Initiative on Alzheimer's Disease George Vrandenburg氏
- ・ World Dementia Council Lenny Shallcross氏
- ・ 京都府立医科大学 大学院医学研究科 成本迅氏
- ・ 特定非営利活動法人 日本医療政策機構 乗竹亮治氏
- ・ 国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 杉本大貴氏

- ・ 米国でアルツハイマー患者の権利擁護の団体を運営するVrandenburg氏からは、この課題に対処するために、温暖化対策などで行われてきたような国際的なメカニズムやゴールが必要であり、研究者が集まってオープンな議論を行うことが重要であるとの指摘がなされた。
- ・ World Dementia CouncilのShallcross氏は、加齢・認知症によるコストの問題は次世紀に向けての大きな課題であると指摘したうえで、その対策のためには、産・官・学のパートナーシップ、データの共有、ファンドを提供などが必要となるとの指摘があった。また、OECDの加盟国6カ国が認知症のレジストリーを確立していることが紹介された。
- ・ 国立長寿医療研究センターの杉本氏からは、認知症を予防するための「ジャパン・マルチ・モーダル・スタディ」というプロジェクトの紹介があった。このプロジェクトはFace to faceのサポートが認知症の方には必要であるという仮説に基づき、症状の改善・悪化に対して様々なテクノロジーで対処することを目的として民間企業と連携して取り組んだという。
- ・ 京都府立医科大学の成本氏からは、京都で行っているクロスセクショナルなコンソーシアムの紹介があった。高齢者の自立性を高めることを目的に民間企業と組んで行っているもので、大学、公的部門とも協力している。また、当センターでシンクタンクを設立し、認知症患者の意思決定をサポートするため、民間企業・医療機関と連携し、様々な分野で取り組みを行っていることが紹介された。

パネルディスカッション「Aging Society構築に向けて」

登壇者

- University Medical Center Groningen Bart Scheerder氏
- GCOA, High Lantern Group Michael Hodin氏
- AARP Stephanie Krone Firestone氏
- 日本医師会 今村聡氏
- 経済産業省経済産業省ヘルスケア産業課 西川和見

- 世界共通の課題である高齢化への対応について、高齢になっても幸せな生活を送るためにどのようなアクションが必要か、という点について議論を行った。
- 政府のシステムだけではなく、人々の考え方や仕事を含めたライフスタイルの変化が必要であるという論点に立ち、各スピーカーより、アメリカのNPOであるAARPの紹介、オランダの都市フローニンゲンにおける「ヘルシーエイジング」をビジョンとした取り組みの紹介、日本医師会における健康観（健康とはどのようなものかという意識）に関する啓発活動、かかりつけ医の機能充実・強化の取り組み、ビジネス界のコンソーシアムであるGCOAによる「シルバーエコノミー」の実現に向けた取り組みの紹介などを行った。
- ディスカッションの中では来場者との質疑応答も行った。会場からは、「社会全体を巻き込んで健康になっていくことを考えたとき、健康格差やリテラシーの低さ、経済格差など様々な要素を考える必要があるが、フローニンゲンのケースではどのような対応をしているのか」、「高齢者の社会参加について、どのようなアクションが適切か」といった質問がなされた。

パネルディスカッション「Digital Healthの現状」

登壇者

- Massachusetts Institute of Technology Brian W. Anthony氏
- HIMSS Charles Alessi氏
- Hasso Plattner Institute Erwin Böttinger氏
- 京都大学 大学院医学研究科 黒田知宏氏
- 世界経済フォーラム第四次産業革命日本センター 山本精一郎氏

- 各界の専門家より、デジタルヘルスの現状について紹介、議論を行った。例えば、MITにおけるセンサーを通じた連続的なデータ収集とその活用事例、HIMSSの組織やグローバルなネットワーク連携による取り組み、世界経済フォーラム第四次産業革命日本センターによるデータガバナンスのフレームワーク構築の取り組み、Hasso Plattner Instituteによるデータのデジタルエンジニアリングの取り組みや医療分野におけるデジタルイノベーションの成功事例、京都大学におけるIoTやセンサーを活用した「先制医療」の研究などについて、紹介がなされた。
- データの取り扱いについては、患者個人の同意だけではなく、社会全体の同意が必要ではないか、という指摘があった。データをトータルに社会資本ととらえ、それを活用しようという社会のコンセンサスを得ることがデジタルヘルスの実現に向けた大きなステップであるという議論が行われた。
- これらを踏まえ、会場からは、最新のセンシングデバイスやその機能、人々の生活の中でのセンサー技術の活かし方、ビッグデータの活用可能性について、など質問が出され、活発な議論が行われた。

企業名 : Icaria (QDH-1)
国/地域 : 日本
プレゼンタイトル : Early Cancer Detection and Treatment Selection by Urine Test
概要 : 近年疾患や人々の健康状態との関係が注目されている「エクソソーム」「miRNA」を体液から高効率に捕捉する独自デバイスを擁しており、これら生体分子を機械学習で網羅的に解析することで過去に類を見ない高精度がん診断アルゴリズムを生成することに成功。



企業名 : PhysioCue (QDH-2)
国/地域 : 米国
プレゼンタイトル : Non-invasive hypertension therapy device and a migraine and headache therapy device
概要 : 非侵襲性高血圧治療機器と片頭痛・頭痛治療機器を開発している消費者健康・医療機器開発会社。当社の治療装置は効率的で、安全で、使いやすく、高血圧治療薬や片頭痛治療薬と関連する副作用はない。

企業名 : Hacars (QDH-3)
国/地域 : 日本
プレゼンタイトル : Stroke diagnosis and treatment support AI created for emerging countries and depopulated areas
概要 : 脳卒中の診断・治療に関する専門知識を持った医師のノウハウと経験をAIに移植することで、専門知識を持たない新興国と過疎地の医師の支援を行う。



企業名 : Health2Sync (QDH-4)
国/地域 : 台湾
プレゼンタイトル : Digital Therapeutics – Personal and Scalable Interventions for Chronic Disease Management
概要 : 糖尿病治療をパーソナライズするソフトウェアプラットフォーム（アプリケーションとクラウド）を提供。患者がアプリに各種データを入力すると、その患者に合わせたアラート、リマインダー、助言が患者に提供される。



グランプリ

企業名：EchoCare（QDH-5）

国/地域：イスラエル

プレゼンタイトル：Elderly Care Home Observer (ECHO), From Incident Detection to Preventive Care

概要：転倒・浴槽での溺水といった緊急事態を検出する老人ホームモニタリングシステムを開発。天井に設置されたECHOデバイスと、webベースのナースングコールシステムを使って介護者等にアラートやデータを配信。



企業名：Sharp Therapeutics（QDH-6）

国/地域：英国

プレゼンタイトル：Adding life to years - Using digital therapeutics for risk assessment and risk reduction of Alzheimer's

概要：アルツハイマー病等の中枢神経系（CNS）の状態の予防、検出、モニタリング、及び治療を支援するデジタル治療を開発。

企業名：Nightingale Health（QDH-7）

国/地域：フィンランド

プレゼンタイトル：Solving the global chronic disease crisis – the preventive and personalized healthcare of the future

概要：心臓病や糖尿病などの標準的な技術では見つけない慢性疾患に関する独自の洞察を得ることができる革新的な血液検査技術を開発。この技術により、将来のリスクを予測し、人々の健康にプラスの影響を与える。



企業名：Pharsoz Technologies（QDH-8）

国/地域：インド

プレゼンタイトル：Advancing Healthcare with Digital Platform

概要：インドにてオンライン診療のプラットフォームを提供。患者はスマートフォンの"DocsApp"アプリを利用し、AIによる自動問診やビデオ通話・音声通話・チャットを通じた遠隔の医者による診察を利用できる。また、発行された処方箋を利用し薬局やオンライン注文により薬購入可能。

企業名：Health Invest Finland (AG-1)

国/地域：フィンランド

プレゼンタイトル：The heart of personalized care

概要：同社の開発したMy+Care®は対象者の状態のリモートモニタリング、保険・介護サービスの調整と管理、及び専門家や家族などの関係者間でのコミュニケーションを統合するプラットフォーム。これにより、介護関連施設は、先進的なデジタルテクノロジーの恩恵を受け、効果的で手頃な価格の介護サービスを顧客に提供することができるようになる。



企業名：Tetsuyu Healthcare (AG-2)

国/地域：シンガポール

プレゼンタイトル：Innovative care management ICT solutions to improve productivity, quality, affordability and ease of multi-disciplinary / multi-site collaboration in community care services

概要：当社は日本の循環器専門医である武藤真祐医師と、シンガポールの銀行の元上級専門家であるNg Li Lian氏によって共同設立された。武藤医師は1200人の患者を抱える国内最大級の在宅医療機関“Tetsuyu Medical Institute”を設立、運営しており、在宅ケアの変革にICTを活用したことで高く評価されている。

企業名：Navigil (AG-3)

国/地域：フィンランド

プレゼンタイトル：Share and Care; path to safe aging with a wearable device and platform

概要：高齢者と認知症患者向けのウェアラブル腕時計と関連サービスプラットフォームを提供。世界最小のアナログ式ウエルビーイング腕時計で、LTE携帯通信、屋外でのGPS、及び屋内でのビーコン追跡、活動状態やバイタルサインをモニターしてAIに基づいた傾向データ分析を実施、SOSコールのルーティング・通知サービスを提供する。



企業名：TeiaCare (AG-4)

国/地域：イタリア

プレゼンタイトル：TeiaCare: Innovation for a Resident-Centered Assistance in Nursing Homes

概要：誰でも利用できる非接触型モニタリングの新時代をもたらすことで非効率的な患者モニタリングの問題を解決することを使命とする。バイオメディカル、ソフトウェアエンジニア、医師、看護師からなるチームで構成されており、新興企業の設立や先導、医療機器業界への新技術の導入に携わってきた。

企業名：Oenix（AG-5）

国/地域：台湾

プレゼンタイトル：Oenix Cloud Smart Care System Protects Elderly Security

概要：使いやすいインターフェイスでスマートデバイスの統合と容易な管理を可能にするOenix Nightingale Smartcare SystemとOenix Guardian Angel Smartcare Systemを開発。介護者の携帯電話への瞬時の危険アラート発信や、リアルタイムの視覚的遠隔監視と自動調光を可能にし、長期的な健康管理を改善する。



Multi-Point Sensing



企業名：Xenoma（AG-6）

国/地域：日本

プレゼンタイトル：e-skin Next-Generation Smart Apparel for Better Aging Society

概要：e-skin Sleep & Loungeは、普段着と同様の着心地・デザインを実現したスマートパジャマやスマートルームウェアを着用するだけで、人々の快適な睡眠と、家族などとの健康関連情報の円滑なコミュニケーションを可能にするプロダクトサービス。

企業名：BestBrain（AG-7）

国/地域：イスラエル

プレゼンタイトル：BestBrain, effective Cognitive Self-Care for MCI-AD

概要：iRememberは早期アルツハイマー病患者の記憶機能を改善し、日常生活を劇的に改善する。このヘッドセットは被験者の脳信号をパソコンに送信し、ソフトウェアが画面の明るさを調整して、脳の望ましい活動に肯定的なフィードバックを与える。このセッションにより脳の動きが改善する。

グランプリ

Ageing Asia Alliance Award



企業名：Kraydel（AG-8）

国/地域：英国

プレゼンタイトル：Kraydel: TV-based Agetech to address resilience and loneliness

概要：高齢者が自分の家で健康で幸せな生活を送れるよう、TVと接続したホームハブとサービスを開発。当社のハブには、光、音、動き、温度などのセンサーが搭載されており、環境の安全確保、日常生活動作の学習、気になる変化があった場合のアラート発信などを行っている。

See you next year !



2nd WELL AGING SOCIETY SUMMIT ASIA-JAPAN

Organizer:

**Ministry of Economy, Trade and Industry, Japan
Innovation Hub (InnoHub)**

Co-organizer:

**Cabinet Secretariat
Ministry of Health, Labour and Welfare**